

ベリタスアプライアンス管理ガイド

リリース 3.1.1

ベリタスアプライアンス管理ガイド

法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティの所有物であることを示す必要があるサードパーティソフトウェア（「サードパーティプログラム」）が含まれている場合があります。一部のサードパーティプログラムは、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスに基づいて提供されています。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このベリタス製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のままで提供され、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202 以下の「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となり、Veritas による納品が内部設置型またはホスト型のサービスのいずれであるかは問いません。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートへの問い合わせ方法については、次の弊社の **Web** サイトにアクセスしてください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL でベリタスアカウントの情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関する質問については、次に示す地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通（日本を除く）

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

最新バージョンのマニュアルがあることを確認してください。各マニュアルには、ページ 2 の最終更新の日付が表示されます。最新のマニュアルは、次のベリタス **Web** サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

APPL.docs@veritas.com

次のベリタスコミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<http://www.veritas.com/community/ja>

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) の表示

ベリタスの **Service and Operations Readiness Tools (SORT)** は、時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、**SORT** はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。**SORT** がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	概要	6
	概要	6
	アプライアンス管理コンソールについて	7
	アプライアンス管理サーバーについて	8
	アプライアンス管理エージェントについて	9
	AMS とエージェントのトポロジについて	9
第 2 章	AMS としてのアプライアンスの構成	11
	AMS としてのアプライアンスの構成	11
	アプライアンスの管理ロールを AMS として設定する	12
	AMS ユーザーロールについて	13
	ユーザーまたはユーザーグループへの AMS ロールの付与	14
	アプライアンス管理コンソールへのログオン	15
第 3 章	[ホーム (Home)] ページからのアプライアンスの管理	18
	[ホーム (Home)] ページ	18
	アプライアンス管理コンソールへのアプライアンスの追加	20
	アプライアンス管理コンソールからの 1 つ以上のエージェントの削除	23
	リポジトリの管理	24
	AMS でのパスワードの変更	26
	アプライアンスソフトウェアのアップグレードの管理	27
	EEB のインストールの管理	32
	アプライアンス管理コンソールからのログアウト	36
第 4 章	アクティビティモニターとイベントの使用	37
	アクティビティモニターについて	37
	アクティビティモニターへのアクセス	38
	イベントの監視	38
	マイアプライアンスポータルへのアクセス	40
索引		41

概要

この章では以下の項目について説明しています。

- 概要
- アプライアンス管理コンソールについて
- アプライアンス管理サーバーについて
- アプライアンス管理エージェントについて
- AMS とエージェントのトポロジについて

概要

ベリタスアプライアンス管理コンソールは、複数のアプライアンスを一括管理するインターフェースです。多くのアプライアンスを管理者が 1 人で同時に管理できます。この機能は、NetBackup Appliance 3.1 以降で利用できます。

アプライアンス管理コンソールは、アプライアンス管理サーバー (AMS) でホストされます。アプライアンス管理コンソールから、構成済みアプライアンスを追加または削除することができます。

アプライアンス管理コンソールから次のタスクを実行できます。

- 選択したアプライアンスの同時アップグレード
- Emergency Engineering Binary ファイル (パッチ) の選択したアプライアンスへのインストール
Emergency Engineering Binary ファイルは、各リリースに組み込まれる顧客関連の修正プログラムです。

『アプライアンス管理ガイド』では、一括管理インターフェースで複数のアプライアンスを管理する場合に必要な手順について説明しています。

アプライアンス管理コンソールについて

アプライアンス管理コンソールは、1 つのペインから複数の NetBackup アプライアンスを一元管理できる、Web ベースのグラフィカルユーザーインターフェースです。NetBackup アプライアンスを全社規模で監視および管理できます。このコンソールでは、複数のアプライアンスに対して EEB (Emergency Engineering Binary) ファイルを同時にアップグレードおよびインストールすることができます。

メモ: ソフトウェアバージョン 2.7.3 と 3.0 を使用するアプライアンスでは、アプライアンス管理コンソールを使用したアップグレードもサポートされます。アプライアンス管理コンソールからバージョン 2.7.3 または 3.0 のアプライアンスをアップグレードするには、最初にこれらのアプライアンスで特定の EEB を適用する必要があります。詳しくは、この[リンク](#)を確認してください。

管理インターフェースを使用すれば、特に環境内に複数のアプライアンスがある場合に、時間と費用を節約することができます。アップグレードまたは EEB をインストールするために個々のアプライアンスにログオンする必要はありません。管理対象アプライアンスは、1 つのネットワークに存在することも、分離されたネットワークに存在することもでき、どちらも 1 つの管理ネットワークから確認できます。

3.1 以降では、2 つの Web ベースのグラフィカルユーザーインターフェースが NetBackup アプライアンスで利用できます。必要条件に基づいて、次のいずれかの方法を選択できます。

- **NetBackup Appliance Web Console**
個々のアプライアンスの管理および構成に関連する NetBackup Appliance Web Console です。
- **アプライアンス管理コンソール**
アプライアンスを AMS として構成すると、特定のアプライアンスのアプライアンス管理コンソールにアクセスできます。アプライアンス管理コンソールは、複数の NetBackup アプライアンスの EEB をアップグレードまたはインストールする場合に使用できる管理インターフェースです。

アプライアンス管理コンソールの機能を次に示します。

- 管理対象サーバーを [ホーム (Home)] ページに表示します。
- 同じバージョンの複数のアプライアンスをアップグレードします。
- アプライアンス管理コンソールからバージョン 2.7.3 または 3.0 のアプライアンスをアップグレードする場合は、最初にこれらのアプライアンスで特定の EEB を適用する必要があります。詳しくは、この[リンク](#)を確認してください。
- 同じバージョンの複数のアプライアンスに EEB を適用します。複数のアプライアンスには、1 度に 1 つの EEB のみが適用されます。

- 現在実行されているすべてのインストールまたはアップグレードをアクティビティモニターから確認します。[監視 (Monitor)] > [イベント (Events)] で、アプライアンス管理サーバーのイベントを確認することもできます。

メモ: インストールまたはアップグレードは、アクティビティモニターから確認できるように、アプライアンス管理コンソールから開始する必要があります。

任意のページで右上隅にある「?」をクリックすると、『アプライアンスの管理ガイド』を参照できます。

アプライアンス管理サーバーについて

次のコンポーネントは、アプライアンス管理の鍵となります。

- アプライアンス管理サーバー (AMS)
- アプライアンス管理エージェント (エージェント)

バージョン 3.1 以降をインストールしている設定済みの NetBackup アプライアンスは、AMS として設定できます。マスターサーバーで AMS を構成することを推奨します。AMS 構成は、データベースやリポジトリの作成などのさまざまな処理を行います。AMS はエージェントによって送信される運用データを取得し、それをデータベースに挿入します。AMS ごとのエージェントの最大数に制限はありません。

単一の管理サーバーは、1 つの環境で複数のエージェントを管理します。バージョン 3.1 以降をインストールしている設定済みの NetBackup アプライアンスは、エージェントとして設定できます。エージェントは、マスターサーバーまたはメディアサーバーとして使用できます。すべてのエージェントは、REST API の呼び出しを介して、ポート 443 (https) で AMS と接続して通信します。これらのエージェントは、単一または複数のエンタープライズデータセンターに配置できます。エージェントが複数のデータセンターに配置されている場合、すべてのエージェントは同じエンタープライズネットワークインフラストラクチャに属している見なされます。つまり、何らかの全社規模の VPN によって、すべてのエージェントが互いの IP アドレスに直接接続できるということです。同じシステム内の全コンポーネント間の通信は、信頼できる識別情報証明書とセキュリティトークンに基づいており、安全です。このようにセキュリティで保護された通信インフラストラクチャは、AMS のインストール時、またエージェントがアプライアンス管理コンソールに追加されたときに配置されます。セキュリティは証明書として保持され、エージェントがアプライアンス管理コンソールから削除されるとトークンが期限切れまたは無効になります。

メモ: アプライアンスは、エージェントと AMS の両方ではなく、そのいずれかに設定できます。

認証および認可された AMS 管理者のみが AMS コマンドを発行し、エージェントのノードを制御できます。すべてのエージェントは、定期的に状態情報を AMS に送信します。エージェントから AMS に情報を送信するフローは安全かつ連続的であり、ストレージ消費などの重要な時系列データの集合と重大なイベントをサポートします。

AMS ユーザーロールは、AMS がホストする Web アプリケーションを使用してアプライアンスを管理します。これは、アプライアンス管理コンソールと呼ばれます。アプライアンス管理コンソールでは、NetBackup アプライアンスの全社規模の監視と管理が可能です。バージョンが同じアプライアンスで EEB をアップグレードおよび更新できます。常に専用のアプライアンスにログオンし、その他すべてのタスクに NetBackup Appliance Web Console を使用できます。

アプライアンス管理エージェントについて

AMS を構成したら、AMS ユーザーはアプライアンス管理コンソールにアプライアンスを追加する必要があります。NetBackup アプライアンスは、エージェントとしてアプライアンス管理コンソールに登録する必要があります。エージェントの登録処理では、アプライアンス管理コンソールを使用してアクセスキーを生成し、このキーをエージェントのシェルメニューに貼り付けます。

p.20 の「[アプライアンス管理コンソールへのアプライアンスの追加](#)」を参照してください。

エージェントを追加したら、AMS ユーザーは、アプライアンス管理コンソールを使用してエージェントを管理できます。すべてのエージェントは、REST API の呼び出しを介して、ポート 443 (https) で AMS と接続して通信します。

アプライアンスは、エージェントまたは AMS のいずれかに設定できます。

以下のシナリオはサポートされていません。

- エージェントを昇格して AMS にすることはサポートされません。
- AMS の管理の役割をエージェントに変更することはサポートされません。

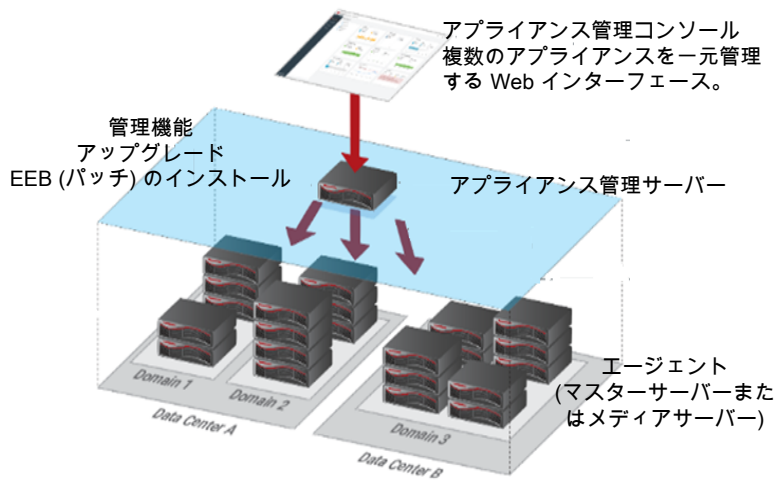
AMS とエージェントのトポロジについて

このトピックでは、アプライアンスの中央管理を有効にするトポロジを設定する方法について説明します。

トポロジは、複数のエージェントを管理する 1 つの AMS で構成されます。作業負荷とパフォーマンスに応じて、使用環境でこのようなトポロジを複数使用できます。

 [図 1-1](#) に、AMS とエージェントのトポロジを示します。

図 1-1 AMS とエージェントのトポロジ



メモ: 1 つのトポロジでサポートされる AMS は 1 つだけです。

AMS としてのアプライアンスの構成

この章では以下の項目について説明しています。

- [AMS としてのアプライアンスの構成](#)
- [アプライアンスの管理ロールを AMS として設定する](#)
- [AMS ユーザーロールについて](#)
- [ユーザーまたはユーザーグループへの AMS ロールの付与](#)
- [アプライアンス管理コンソールへのログオン](#)

AMS としてのアプライアンスの構成

3.1 以降の NetBackup アプライアンスは、アプライアンス管理サーバーとして設定できます。マスターサーバーで AMS を構成することを推奨します。

次の手順を実行して、AMS としてアプライアンスを構成します。

表 2-1 AMS としてのアプライアンスの構成

手順番号	説明	トピックのリンク
1.	アプライアンスの管理ロールを AMS に設定します。	p.12 の「 アプライアンスの管理ロールを AMS として設定する 」を参照してください。
2.	ユーザーまたはユーザーグループに AMS ロールを付与します。	p.13 の「 AMS ユーザーロールについて 」を参照してください。

手順番号	説明	トピックのリンク
3.	AMS で NetBackup Appliance Web Console のログインページにアクセスし、AMS ユーザークレデンシャルでログインします。これにより、アプライアンス管理コンソールにアクセスできます。	p.15 の「 アプライアンス管理コンソールへのログイン 」を参照してください。
4.	管理対象にするアプライアンスを追加します。	p.20 の「 アプライアンス管理コンソールへのアプライアンスの追加 」を参照してください。

アプライアンスの管理ロールを AMS として設定する

NetBackup アプライアンスの管理ロールを設定することができます。環境内の複数の NetBackup アプライアンスをアプライアンス管理コンソールで一元管理する場合は、アプライアンスの管理ロールを設定する必要があります。1 つの環境の 1 台の AMS で、複数のエージェントを管理できます。

アプライアンスの管理ロールを AMS として設定するには、まず以下の前提条件を確認します。

- バージョン 3.1 以降のアプライアンスはすべて、アプライアンス管理サーバー (AMS) として設定できる。
アプライアンスを構成する必要がある。マスターサーバーで AMS を構成することを推奨します。
- アプライアンスの管理ロールを AMS またはエージェントとして設定できるが、その両方としては設定できない。
- AMS としてアプライアンスを設定すると、管理ロールを変更できない。管理ロールは、アプライアンスを出荷時の設定にリセットした場合にのみリセットされる。
- AMS で独自の証明書をインストールした場合や、AMS のホスト名を変更した場合は、すでに登録されているすべてのエージェントを再び追加する必要がある。同様に、エージェントに独自の証明書をインストールした場合や、エージェントのホスト名を変更した場合は、AMS に再びエージェントを追加する必要がある。

アプライアンスの管理ロールを AMS として設定するには

- 1 NetBackup Appliance Shell Menu にログインします。AMS として設定するアプライアンスである必要があります。アプライアンスは、バージョン 3.1 以降である必要があります。
- 2 [アプライアンス (Appliances)] メニューに移動します。

- 3 次のコマンドを実行します。

```
Management Server
```

- 4 次のメッセージが表示されます。

```
[INFO] The Appliance Management Server is successfully configured.  
Use the NetBackup Appliance Shell Menu to create an appliance  
user  
(Local/LDAP/AD)with the AMS role.  
Log on to the NetBackup Appliance Web Console with this account.
```

AMS ユーザーロールについて

セキュリティを強化するには、各ユーザーに異なるロールを割り当てることができます。ロールを使用すると、システムのアクセスを権限セットに制限することができます。ロールは個別ユーザーに適用できます。あるいは、複数のユーザーを含むグループに適用できます。このトピックで説明するユーザーロールは LDAP ユーザー、Active Directory (AD) ユーザー、NIS ユーザーに固有です。

ユーザーロールとそれに関連付けられる権限を次に説明します。

ユーザーロール 権限

管理者	ユーザーは次の項目にアクセスできます。 ■ NetBackup Appliance Web Console ■ NetBackup Appliance Shell Menu ■ NetBackup 管理コンソール
AMS	AMS でホストされるアプライアンス管理コンソール
NetBackupCLI	NetBackup のコマンドライン

AMS ユーザーに関する次の注意事項を確認してください。

- AMS ユーザーは AMS のアプライアンス管理コンソールにアクセスできます。AMS ユーザーは、AMS の NetBackup Appliance Shell Menu または NetBackup Appliance Web Console にアクセスできません。
- AMS の NetBackup Appliance Shell Menu から AMS の役割をユーザーに付与できるのは管理者のみです。
- AMS の役割を付与する前に、アプライアンスで AMS を構成する必要があります。
p.11 の「[AMS としてのアプライアンスの構成](#)」を参照してください。

ユーザーまたはユーザーグループへの AMS ロールの付与

AMS で、NetBackup Appliance Shell Menuを使用して AMS ロールをユーザーに付与できます。AMS ユーザーロールを付与するアプライアンスで、AMS を設定していることを確認します。

ユーザーまたはユーザーグループの作成について詳しくは、『NetBackup Appliance 管理者ガイド』を参照してください。

AMS ロールをユーザーに付与するには

- 1 AMS の NetBackup Appliance Shell Menuに管理者としてログオンします。管理者のみが AMS ユーザーロールを付与できます。
- 2 [メイン (Main)] > [設定 (Settings)] > [セキュリティ (Security)] > [認可 (Authorization)]に移動します。

- 3 ユーザーまたはグループに AMS ロールを付与できます。次のいずれかのコマンドを使用します。

```
Grant AMS Users users
```

例: `Grant AMS Users garry`

ここで、**users** は、ローカルユーザーまたは構成したリモートディレクトリサービス (LDAP、AD、NIS など) でアプライアンスに追加した登録済みユーザーのカンマ区切りリストです。

```
Grant AMS Group groups
```

ここで、**groups** は、構成されたリモートディレクトリサービス (LDAP、AD、NIS など) からアプライアンスに追加された、登録済みユーザーグループのカンマ区切りリストです。

- 4 List コマンドを使用して、ユーザーまたはユーザーグループのロールを確認できます。

例:

```
nbapp.Authorization> List
```

+-----+-----+-----+-----+-----+				
Principal Type	Name/login	Access	Role	Principal Source
+-----+-----+-----+-----+-----+				
User	garry	Allowed	AMS	Local
+-----+-----+-----+-----+-----+				
Group	NBALocalAdmins	Allowed	Administrator	Local
+-----+-----+-----+-----+-----+				
Group	AMSadmin-grp	Allowed	AMS	Local
+-----+-----+-----+-----+-----+				

アプライアンス管理コンソールへのログイン

アプライアンス管理コンソールにアクセスするには、次の操作を実行する必要があります。

- アプライアンスの管理ロールを AMS として設定する
p.12 の「[アプライアンスの管理ロールを AMS として設定する](#)」を参照してください。
- AMS のユーザーに AMS の役割を付与する
p.13 の「[AMS ユーザーロールについて](#)」を参照してください。

p.14 の「ユーザーまたはユーザーグループへの AMS ロールの付与」を参照してください。

これらの前提条件を満たしたら、サポートされているブラウザを使用して AMS で NetBackup Appliance Web Console のログインページを開き、AMS ユーザーとしてログインしてアプライアンス管理コンソールにアクセスします。ログインページで、アプライアンス管理コンソールや NetBackup Appliance Web Console にもログインすることができます。アプライアンス管理コンソールにアクセスするには、AMS のユーザークレデンシャルを入力する必要があります。ログインページで通常の admin クレデンシャルを入力すると、特定のアプライアンスの NetBackup Appliance Web Console にアクセスできます。

表 2-2 に、アプライアンスの管理コンソールにアクセスするための推奨ブラウザの一覧を示します。

表 2-2 アプライアンス管理コンソールの推奨ブラウザ

ブラウザ	サポートされるバージョン
Mozilla Firefox	52.0.0 以降
Google Chrome	57.0.2987 以降

メモ: Internet Explorer 11.0 以降のバージョンもサポートされます。

ログインページからアプライアンス管理コンソールにアクセスする手順は次のとおりです。

アプライアンス管理コンソールにログインするには

メモ: アプライアンス管理コンソールにログインする前に、アプライアンスを AMS として設定する必要があります。また、AMS のシェルメニューから、ユーザーに AMS の役割を付与する必要があります。

- 1 アプライアンスへのネットワーク接続があるシステムで、Web ブラウザを起動します。
表 2-2 に、アプライアンスの管理コンソールにアクセスするための推奨ブラウザの一覧を示します。

Web ブラウザのアドレスバーに、次のように入力します。

`https://host.domain`。ここで、`host.domain` は AMS の完全修飾ドメイン名 (FQDN) であり、IP アドレスになる場合もあります。

ホスト名は、アプライアンスに割り当てられた、ネットワーク内でデバイスを識別するためのラベルです。

- 2 AMS の役割を持つユーザーのクレデンシャルを入力します。

アプライアンス管理コンソールの [ホーム (Home)] ページにアクセスできます。

メモ: アプライアンス管理コンソールにアクセスするには、AMS のユーザークレデンシャルを入力する必要があります。ログインページで通常の `admin` クレデンシャルを入力すると、特定のアプライアンスの `NetBackup Appliance Web Console` にアクセスできます。

[ホーム (Home)] ページからのアプライアンスの管理

この章では以下の項目について説明しています。

- [\[ホーム \(Home\)\] ページ](#)
- [アプライアンス管理コンソールへのアプライアンスの追加](#)
- [アプライアンス管理コンソールからの 1 つ以上のエージェントの削除](#)
- [リポジトリの管理](#)
- [AMS でのパスワードの変更](#)
- [アプライアンスソフトウェアのアップグレードの管理](#)
- [EEB のインストールの管理](#)
- [アプライアンス管理コンソールからのログアウト](#)

[ホーム (Home)] ページ

NetBackup Appliance Web Consoleのログインページを開いて AMS ユーザーとしてログインすると、アプライアンス管理コンソールのホームページにアクセスすることができます。このページは、マスターサーバーなどのアプライアンスの役割を設定した後に表示されます。

[ホーム (Home)] ページで、管理するアプライアンス (エージェント) を追加できます。マスターサーバーまたはメディアサーバーとして構成されている NetBackup 3.1 以降のアプライアンスのみを追加できます。

メモ: ソフトウェアバージョン 2.7.3 と 3.0 を使用するアプライアンスを追加できるようになったため、アプライアンス管理コンソールを使用したアップグレードもサポートされます。アプライアンス管理コンソールでバージョン 2.7.3 または 3.0 のアプライアンスを追加またはアップグレードするには、最初にこれらのアプライアンスで特定の EEB を適用する必要があります。詳しくは、この[リンク](#)を確認してください。

図 3-1 [ホーム (Home)] ページ

Home

</

表 3-1 で、[ホーム (Home)] ページに表示される各列について説明します。

表 3-1 [ホーム (Home)] ページ

列	説明
ホスト名 (Hostname)	アプライアンス管理コンソールで管理するエージェントのホスト名 (FQDN) が表示されます。
モデル (Model)	エージェントのハードウェアモデルが表示されます。
役割 (Role)	マスターまたはメディアなどのエージェントの役割。
マスター (Master)	エージェントの関連マスターサーバー。エージェント自体がマスターサーバーの場合、この列のフィールドは空白です。
バージョン	アプライアンスソフトウェアのバージョン。
合計使用済み容量 (Total capacity used)	エージェントの使用済み容量。これには、MSDP、AdvancedDisk、共有、構成などのすべてのパーティションが含まれます。 使用済み容量は、グラフに割合で表示されます。
最後に問い合わせた時間 (Last contact time)	次のいずれかを実行した時間が表示されます。 - EEB のインストール - アップグレード - 特定のエージェントからのインベントリデータの受信

[追加 (Add)] をクリックして、管理するアプライアンスを追加することができます。[削除 (Remove)] をクリックして、選択したエージェントを削除することもできます。

[管理 (Manage)]を使用すると、選択したエージェントでソフトウェアのアップグレードや EEB (パッチ) のインストールを行えます。このページでは、特定のホスト名、バージョン、またはモデルを検索することもできます。

メモ: AMS で、EEB のアップグレードやインストールを行うことはできません。

p.20 の「[アプライアンス管理コンソールへのアプライアンスの追加](#)」を参照してください。

p.23 の「[アプライアンス管理コンソールからの 1 つ以上のエージェントの削除](#)」を参照してください。

アプライアンス管理コンソールへのアプライアンスの追加

AMS によって管理される複数のアプライアンスを追加することができます。アプライアンス管理コンソールで、これらのアプライアンスを追加することができます。マスターサーバーまたはメディアサーバーとして構成されている 3.1 以降のアプライアンスのみを追加できます。

アプライアンスを追加するには、エージェントと管理サーバーの間で情報を交換する前に、それらの間で相互認証を実行する必要があります。二者間の認証プロセスを保護するには、アクセスキーを使用して各エージェントを AMS に登録する必要があります。アプライアンス管理コンソールの[アプライアンスの追加 (Add Appliance)]ページでアクセスキーをコピーして、各エージェントのシェルメニューに貼り付ける必要があります。これにより、AMS とエージェント間の通信が保護されます。

アクセスキーについて、次の点を確認します。

- アクセスキーの長さは、32 文字です。
- 複数のエージェントに同じアクセスキーを使用できます。
- アクセスキーは[再生成 (Regenerate)]をクリックしない限り、期限切れになりません。
- 必要に応じてアクセスキーおよびコマンドを常に再生成できます。アクセスキーを再生成すると、以前のアクセスキーとコマンドは有効でなくなります。

アプライアンス管理コンソールにアプライアンスを追加する前に、次の検討事項を確認します。

- 1 台の AMS にのみアプライアンスを追加する必要があります。2 台以上の別々の管理サーバーへのアプライアンスの追加は、サポートされていません。
- 3.1.1 のアプライアンスを追加する前に、NetBackup Appliance Shell Menu で AMS のアプライアンスソフトウェアバージョンを 3.1.1 にアップグレードします。AMS のアプライアンスソフトウェアバージョンをアップグレードする方法については、『NetBackup Appliance アップグレードガイド』を参照してください。

- アプライアンス管理コンソールでバージョン **2.7.3** または **3.0** のアプライアンスを追加またはアップグレードするには、最初にこれらのアプライアンスで特定の **EEB** を適用する必要があります。詳しくは、この[リンク](#)を確認してください。
- アプライアンスをすでに **AMS** で管理している場合に、同じ **AMS** に再び同じアプライアンスを追加しても、エラーメッセージは表示されません。**AMS** とエージェントは、正常に動作し続けます。
- **AMS** でエージェントを管理している場合に、特定のエージェントを出荷時の設定にリセットすることを検討します。この場合、エージェントは引き続き **AMS** の[ホーム (Home)]ページに表示されますが、そのエージェントで実行された一部の操作は失敗します。**AMS** にエージェントが追加されないこと以外、**AMS** には何も表示されません。この問題を解決するには、アプライアンス管理コンソールからエージェントを削除して、特定の **AMS** にエージェントを再び追加します。
- アプライアンスをエージェントとして構成すると、アプライアンスの管理ロールを **AMS** に変更することはできません。

エージェントを追加するには

- 1 **AMS** で **NetBackup Appliance Web Console**のログインページを開きます。**AMS** ロールを持つユーザーとしてログオンし、アプライアンス管理コンソールにアクセスします。

p.15 の「[アプライアンス管理コンソールへのログオン](#)」を参照してください。
- 2 [ホーム (Home)]ページで、[追加 (Add)]をクリックします。
- 3 [アプライアンスの追加 (Add Appliance)]ページには、コマンド全体またはアクセスキーのみをコピーするオプションがあります。次のいずれかを実行します。
 - [コマンドのコピー (Copy Command)]をクリックして、コマンド全体をコピーします。
または
 - [アクセスキーのコピー (Copy Access Key)]をクリックして、アクセスキーのみをコピーします。このオプションを使用する場合は、手順4でエージェントのシェルメニューにコマンドを入力する必要があります。

Add Appliance

Copy the access key or the command, log on to the agent, then paste into the shell menu. You can use the same access key for multiple agents.

4d7f7b334274038fa09634903f5db2d971

Copy Access Key

Paste this key into the Appliance menu

OR

Management Agent Register `amdemo.esgba.veritas.com 4d7f7b334274038fa09634903f5db2d971`

Copy Command

Paste this command into the Appliance menu.

新しいアクセスキーを生成する場合は、[再生成 (Regenerate)]をクリックできます。アクセスキーを再生成すると、以前のアクセスキーとコマンドは有効でなくなります。

- 4 エージェントアプライアンスで **NetBackup Appliance Shell Menu**にログオンします。アクセスキーとコマンド全体のどちらをコピーしたのかに応じて、次のいずれかの操作を行います。

- [コマンドのコピー (Copy Command)]をクリックした場合は、[アプライアンス (Appliance)]メニューを参照し、右クリックしてコマンドを貼り付けます。手順 5 に進みます。
- [アクセスキーのコピー (Copy Access Key)]をクリックした場合は、[アプライアンス (Appliance)]メニューを参照します。
次のコマンドを入力してアプライアンスをエージェントとして構成します。
`Management Agent Register <server><access key>`
ここで、<server> は AMS のホスト名または IP アドレスです。シェルメニューにアクセスキーを貼り付けます。

- 5 エージェントのシェルメニューに次の情報が表示されます。

```
[INFO] Preparing to set this appliance as an agent...
[INFO] Establishing a secure connection with the AMS...
[INFO] This appliance is now set as an agent and registered
to the AMS <hostname>.
```

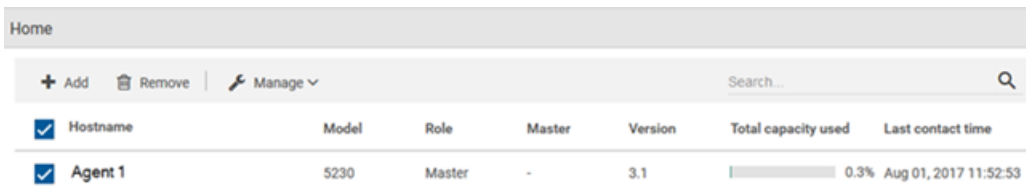
- 6 アプライアンス管理コンソールに移動し、ブラウザを更新します。エージェントは、[ホーム (Home)]ページのアプライアンスのリストに存在するはずですが、

アプライアンス管理コンソールからの 1 つ以上のエージェントの削除

アプライアンス管理コンソールから 1 つ以上のエージェントを削除するには、次の手順を使用します。

1 つ以上のエージェントを削除するには

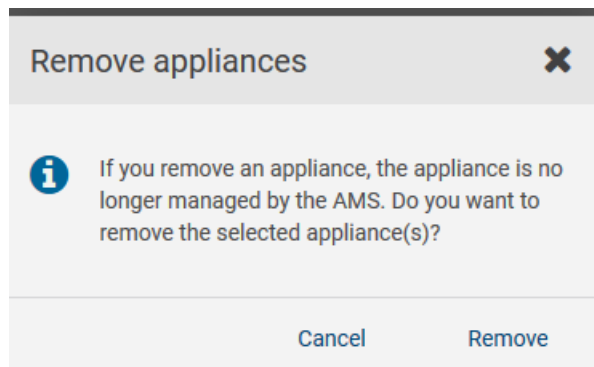
1 [ホーム (Home)] ページで、削除するエージェントを選択します。



☒	Hostname	Model	Role	Master	Version	Total capacity used	Last contact time
☒	Agent 1	5230	Master	-	3.1	0.3%	Aug 01, 2017 11:52:53

2 [削除 (Remove)] をクリックします。

3 以下のダイアログボックスが表示されます。



選択したアプライアンスを削除するには、[削除 (Remove)] をクリックします。アプライアンスが削除され、アプライアンス管理コンソールで管理できなくなります。

リポジトリの管理

[リポジトリ (Repository)] ページでは、アプライアンス管理サーバー (AMS) に保存できるアップグレードパッケージと EEB (Emergency Engineering Binary) ファイルを管理できます。

各パッケージの簡単な説明を次に示します。

- アップグレードパッケージ (リリース更新)
これらのパッケージは、オペレーティングシステム、アプライアンスソフトウェア、**NetBackup** ソフトウェアなどのすべてのアプライアンスアプリケーションをアップグレードします。
- EEB ファイル (パッチ)
これらのファイルは、アプライアンスソフトウェアの特定のバージョンの特定の問題を修正します。

次に、リポジトリを管理するための機能と、リポジトリ内にあるパッケージまたはファイルについて表示される詳細情報について説明します。

- [追加 (Add)]: リポジトリに追加するパッケージまたはファイルを見つけて選択できるダイアログボックスが開きます。パッケージまたはファイルをリポジトリに追加すると、上部に最新の追加が表示されます。
- [削除 (Delete)]: 選択したパッケージまたはファイルをリポジトリから削除できます。
- [ファイル名 (File name)]: パッケージまたはファイルの完全な名前。
- [タイプ (Type)]: パッケージまたはファイルのタイプ ([アップグレード (Upgrade)] または [EEB])。
- [サイズ (Size)]: パッケージまたはファイルのサイズ。
- [バージョン (Version)]: アップグレードパッケージのソフトウェアバージョン、または EEB ファイルに関連するアプライアンスソフトウェアバージョン。

ファイルまたはパッケージが追加される前の、空のリポジトリの例を次に示します。



File Name	Type	File Size	Version
-----------	------	-----------	---------

アップグレードパッケージが追加された後の例を次に示します。



File Name	Type	File Size	Version
SYMC_NBUAPP_upgrade-3.x-1.s00_04.rpm	Upgrade	4.2 GB	3.x

リポジトリにアップグレードパッケージまたはファイルを追加する場合のガイドライン

リポジトリにアップグレードパッケージを追加する場合は、次のガイドラインを使用します。

- ベリタスサポートサイトからダウンロードしたアップグレードパッケージまたは EEB ファイルのみを追加する
- アップグレードパッケージ名や EEB ファイル名は変更しない
- 10 GB を超えるパッケージまたはファイルは追加しない
- パッケージまたはファイルを追加する前に、追加するのに十分な領域がリポジトリにあることを確認する

メモ: バージョン 3.1 にアップグレードしたら、パッケージまたはファイルをリポジトリに追加する前に、/config パーティションのサイズを 150 GB に増やす必要があります。NetBackup Appliance Shell Menu にログインし、Main_Menu > Manage > Storageビューに移動します。次に、パーティションのサイズを 150 GB に変更するため、次のコマンドを実行します。Resize Configuration 150GB

リポジトリへのアップグレードパッケージまたは EEB ファイルの追加

リポジトリにアップグレードパッケージまたは EEB ファイルを追加するには、次の操作を実行します。

- パッケージまたはファイルをベリタスからダウンロードします。
- AMS から、ダウンロードしたパッケージまたはファイルを検索し、リポジトリに追加します。

アップグレードパッケージまたは EEB ファイルをダウンロードしてリポジトリに追加するには、次の手順を使用します。

パッケージまたは EEB ファイルをダウンロードしてリポジトリに追加するには

- 1 アプライアンスドメイン内のコンピュータで、適切なパッケージまたはファイルをベリタスからダウンロードします。
- 2 同じコンピュータから別のブラウザウィンドウを開き、AMS ユーザーとして AMS にログインします。
- 3 [ホーム (Home)] ページで、[設定 (Settings)] をクリックします。
- 4 [設定 (Settings)] ページで、[リポジトリ (Repository)] をクリックします。
- 5 [リポジトリ (Repository)] ページで、[追加 (Add)] をクリックします。
- 6 表示されるダイアログボックスで、次の操作を行います。

- ダイアログボックスの上部で、ドロップダウンリストをクリックして、ベリタスからパッケージまたはファイルをダウンロードした場所に移動します。
- 表示される項目のリストから、ダウンロードしたパッケージまたはファイルを選択し、[開く (Open)]をクリックします。
パッケージまたはファイルは、[リポジトリ (Repository)]ページのリストの上部に表示されます。

アップグレードパッケージまたは EEB ファイルのリポジトリからの削除

パッケージまたは EEB ファイルを[リポジトリ (Repository)]から完全に削除するには、次の手順を使用します。

アップグレードパッケージまたは EEB ファイルをリポジトリから完全に削除するには

- 1 不要になったパッケージまたはファイルの横にあるチェックボックスをクリックします。
すべてのパッケージとファイルを選択するには、リストの最初の項目の上に表示されるチェックボックスをクリックします。
- 2 [削除 (Remove)]をクリックします。

AMS でのパスワードの変更

ログインしているユーザーは、[パスワードの変更 (Change password)]ページでパスワードを変更できます。新しいパスワードは、現在適用されているパスワードポリシーの必要条件を満たす必要があります。

デフォルトでは、NetBackup のすべてのアプライアンスで次のパスワードルールが適用されます。

- 8 文字以上
- 少なくとも 1 つの小文字
- 少なくとも 1 つの数字 (0 から 9)

メモ: 大文字と特殊文字を含めることはできますが、必須ではありません。

- 辞書にある言葉は弱いパスワードと見なされて受け入れられません。
- 過去 7 回分のパスワードは再利用できません。以前のパスワードに類似する新しいパスワードも使えません。

現在のユーザーのパスワードを変更するには、次の手順を実行します。

現在のユーザーのパスワードを変更するには

- 1 [ホーム (Home)] ページの左側の列で、[設定 (Settings)] をクリックします。
- 2 [設定 (Settings)] ページで、[パスワードの変更 (Change password)] をクリックします。
- 3 [パスワードの変更 (Change password)] ページで、次の情報を入力します。
 - 古いパスワード (Old password): 現在のパスワードを入力します。
 - 新しいパスワード (New password): 新しいパスワードを入力します。
 - 新しいパスワードの確認 (Confirm new password): 確認のため、新しいパスワードをもう一度入力します。
- 4 [保存 (Save)] をクリックします。

新しいパスワードが受け入れられると、[パスワードが正常に変更されました。(Password changed successfully.)] というメッセージが表示されます。

新しいパスワードが受け入れられない場合は、[パスワードの変更に失敗しました。(Password change failed.)] というメッセージが表示されます。この手順を繰り返して、有効なパスワードを入力します。

アプライアンスソフトウェアのアップグレードの管理

[ソフトウェアのアップグレード (Upgrade software)] ページでは、同時に複数のアプライアンスでのソフトウェアのアップグレードを管理および配備できます。

メモ: アプライアンス管理コンソールでは、NetBackup 仮想アプライアンスまたは高可用性 (HA) 設定のアプライアンス (ノード) のアップグレードはサポートされません。これらのアプライアンスをアップグレードするには、NetBackup Appliance Shell Menu を使用します。

ページの上部に、必要な各タスクの説明が表示されます。タスクが完了し、次のいずれかを続行すると、ページが更新されて、詳細と次の手順の新しい列見出しが表示されます。

各タスクの詳細列見出しを次に示します。

1. アプライアンス選択の確認

Upgrade software

1 Confirm appliance selection 2 Select upgrade package 3 Check readiness 4 Additional requirements 5 Start upgrades

Ensure that the selected appliances have the same version.
To confirm the selected appliances, click Next. To make changes, click Back.

Search...

Selected appliances (2)	Role	Master	Version
Media	Media	Media	3.1

- 選択したアプライアンス (数) (**Selected appliances (n)**)。各アプライアンスのホスト名と選択したアプライアンスの合計数
- 役割 (**Role**)。選択したアプライアンスに設定されている役割
- マスター (**Master**)。選択したアプライアンスに関連付けられたマスターサーバーの名前
- バージョン (**Version**)。選択したアプライアンスの現在のソフトウェアバージョン

2. アップグレードパッケージの選択

Applicable packages	Type	Version
☐ SYNC_NBAIP_upgrade-3.x-1.x86_64.rpm	Upgrade	3.x

- 選択可能なパッケージ (**Applicable packages**)。リポジトリに存在する互換性のある各アップグレードパッケージの完全名
- タイプ (**Type**)。パッケージの種類 (アップグレード)
- バージョン (**Version**)。リストされた各アップグレードパッケージのソフトウェアバージョン

3. 準備の確認

Selected appliances (2)	Version	Selected package	Status	Additional Requirement
✓ server.com	3.1	NBAIP_upgrade-3.x-1.x86_64.rpm	---	---
✓ server.com	3.1	NBAIP_upgrade-3.x-1.x86_64.rpm	---	---

- 選択したアプライアンス (数) (**Selected appliances (n)**)。各アプライアンスのホスト名と選択したアプライアンスの合計数
- バージョン (**Version**)。選択したアプライアンスの現在のソフトウェアバージョン
- 選択したパッケージ (**Selected package**)。アプライアンスの選択済みアップグレードパッケージの名前
- 状態 (**Status**)。準備の確認の進捗状況と完了後の結果。
- 追加要件 (**Additional requirements**)。アップグレードの前に満たす必要がある特定のアプライアンスの要件。[次へ (Next)]をクリックすると、詳細が表示されます。

4. 追加要件

- 追加要件のあるアプライアンス (数) (Appliances with additional requirements (n))。影響を受けるアプライアンスのホスト名と影響を受けるアプライアンスの合計数
- マスター (Master)。選択したアプライアンスに関連付けられたマスターサーバーの名前
- 要件 (確認) (Requirements (confirmation))。アップグレードの前に実行する必要があるタスクの説明
- 要件 (入力) (Requirements (input))。必要な情報を入力するデータ入力フィールド

5. アップグレードの開始

- 選択したアプライアンス (数) (Selected appliances (n))。各アプライアンスのホスト名とリストされたアプライアンスの合計数
- バージョン (Version)。アプライアンスの現在のソフトウェアバージョン
- 選択したパッケージ (Selected package)。アプライアンスの選択済みアップグレードパッケージの名前

複数のアプライアンスアップグレードのガイドライン

複数のアプライアンスアップグレードを計画する場合は、次のガイドラインを使用します。

- アップグレードプロセスを開始する前に、適切なアップグレードパッケージをダウンロードしてリポジトリに追加する
- アップグレードするアプライアンスを選択するときに、同じソフトウェアバージョンを使用しているアプライアンスのみを選択する
- アップグレードパッケージを 1 つのみ選択して、選択したすべてのアプライアンスに配備する (異なるバージョンのアップグレードパッケージの同時アップグレードは、サポートされません)

- ソフトウェアバージョン 2.7.3 と 3.0 を使用するアプライアンスでは、アプライアンス管理コンソールを使用したアップグレードもサポートされます。アプライアンス管理コンソールからバージョン 2.7.3 または 3.0 のアプライアンスをアップグレードするには、最初にこれらのアプライアンスで特定の EEB を適用する必要があります。詳しくは、この[リンク](#)を確認してください。
- 3.1 のアプライアンスを使用する AMS で、既存のエージェントをバージョン 3.1.1 にアップグレードする場合を検討します。エージェントを 3.1.1 にアップグレードする前に、NetBackup Appliance Shell Menu で AMS のアプライアンスソフトウェアバージョンを 3.1.1 にアップグレードしてください。AMS のアプライアンスソフトウェアバージョンをアップグレードする方法については、『NetBackup Appliance アップグレードガイド』を参照してください。

アプライアンスソフトウェアのアップグレード

アップグレードを開始する前に、以下の操作を完了していることを確認してください。

- 『Veritas NetBackup Appliance アップグレードガイド』の説明に従って、アップグレード前に必要な操作を完了している
- 適切なアップグレードパッケージをリポジトリに追加している
p.24 の『[リポジトリの管理](#)』を参照してください。

次の手順を実行して、アプライアンスソフトウェアをアップグレードします。

アプライアンスソフトウェアをアップグレードするには

- 1 [ホーム (Home)] ページで、アップグレードするアプライアンスを選択します。選択したすべてのアプライアンスで、同じソフトウェアバージョンを使う必要があります。アプライアンスの選択が完了したら、[管理 (Manage)] > [ソフトウェアのアップグレード (Upgrade software)] を選択します。
- 2 [ソフトウェアのアップグレード (Upgrade software)] ページ (手順 1: アプライアンス選択の確認) で、[ホーム (Home)] ページで選択したアプライアンスの情報を確認します。この情報のリストが正しい場合は、[次へ (Next)] をクリックします。
変更する場合は、[ホーム (Home)] ページに戻って変更します。このページに戻って選択内容を確認し、[次へ (Next)] をクリックします。
- 3 更新されたページ (手順 2: アップグレードパッケージの選択) の [選択可能なパッケージ (Applicable packages)] 列で、適切なアップグレードパッケージを選択して [次へ (Next)] をクリックします。

メモ: パッケージは 1 つしか選択できません。

- 4 更新されたページ (手順 3: 準備の確認) で、[準備の確認 (Check readiness)] をクリックしてプレフライトアップグレードチェックを開始します。

メモ: [戻る (Back)]や[次へ (Next)]をクリックしないでください。また、このタスク中にページを更新しないでください。

[状態 (Status)]列で、各アプライアンスのプレフライトチェックの進捗状況と結果を確認します。各アプライアンスの状態の詳細を表示するには、アプライアンス名の隣にある下矢印をクリックしてその行を展開します。

完了すると、この列に各アプライアンスの結果が表示されます。他の処理が必要な場合は、[追加要件 (Additional requirements)]列に示されることもあります。次のような結果になります。

- 成功 (Successful)
アプライアンスの準備の確認が正常に完了したため、アップグレードが可能です。
- 成功 (Successful)、詳細については、[次へ]をクリックしてください (Click Next for details)
アプライアンスの準備の確認が正常に完了しましたが、アップグレードの前に他のタスクを実行する必要があります。
- 失敗 (Failed)
アプライアンスの準備の確認に失敗したため、アップグレードできません。
[次へ (Next)]をクリックします。

- 5** 更新されたページ (手順 4: 追加要件) で、追加要件の情報を確認します。証明書またはトークン、あるいはその両方が必要なアプライアンスの場合は、このページに示される、必要なアイテムの表の上部に取得手順が表示されます。手順は次のとおりです。

マスターサーバーの NetBackup コマンドラインにログインして、次の手順を実行してください。(Log in to the NetBackup command line on the master server and proceed as follows:)

- 1 - 次のコマンドを実行して証明書を表示します: `nbcertcmd -listCACertDetails`
(To view the certificate, run the following command: `nbcertcmd -listCACertDetails`)
- 2 - SHA1 フィンガープリントが両方のインターフェースで一致することを確認します。(Verify that the SHA1 fingerprints match on both interfaces.)
- 3 - 次のコマンドを実行してトークンを生成します: `nbcertcmd` (To generate a token, run the following command: `nbcertcmd`.)
- 4 - NetBackup コマンドラインからトークンをコピーして下に貼り付けます。(Copy the token from the NetBackup command line and paste it below.)
トークンを必要とする各アプライアンスに有効なトークンを入力します。

メモ: 有効なトークンは、マスターサーバーからのみ取得でき、変更できません。任意のアプライアンスに無効なトークンが入力された場合、エラーが表示され、[信頼して続行する (Trust and continue)] をクリックできなくなります。

影響を受けるすべてのアプライアンスの有効なトークンを入力した後で、[信頼して続行する (Trust and continue)] をクリックします。

- 6** 更新されたページ (手順 5: アップグレードの開始) で、[アップグレードの開始 (Start upgrades)] をクリックします。

アクティビティモニターが表示され、選択したアプライアンスすべてのアップグレードの進捗状況を確認できます。手順ごとの進捗状況を表示するには、次のようにアップグレード中にアプライアンスの行を展開します。

```
Step 1 of 8: hh:mm:ss, Performing the preflight check---
Step 2 of 8: hh:mm:ss, Performing the pre-upgrade self-test---
Step 3 of 8: hh:mm:ss, Creating the pre-upgrade checkpoint---
Step 4 of 8: hh:mm:ss, Performing the pre-upgrade tasks---
Step 5 of 8: hh:mm:ss, Upgrading the appliance software---
Step 6 of 8: hh:mm:ss, Upgrading NetBackup---
Step 7 of 8: hh:mm:ss, Performing the post-upgrade tasks---
Step 8 of 8: hh:mm:ss, Performing the post-upgrade self-test---
```

- 7** アプライアンスの状態が[一時停止 (Paused)]と表示される場合、そのアプライアンスの行を展開すると、続行方法に関する詳細全体が表示されます。IPMI コンソールにログインし、次のオプションのいずれかを選択するためのメッセージが表示されます。

- **A** キーを押してセルフテストを再試行します。
- **R** キーを押してアプライアンスを以前のソフトウェアバージョンにロールバックします。
A キーを押し、セルフテストが再度失敗した場合、**R** キーを押して以前のバージョンにロールバックするか、テクニカルサポートに問い合わせてください。

メモ: IPMI コンソールにログインしてこれらを選択しないと、ロールバックは 1 時間後に自動的に発生します。

EEB のインストールの管理

NetBackup の各リリースには、NetBackup の旧バージョンに関わる複数の既知の問題に対する修正が組み込まれます。各リリースに組み込まれたお客様に影響のある修正の一部は、EEB (Emergency Engineering Binary) としても利用できるようになりました。

[EEB (パッチ) のインストール (Install EEB (patch))]
ページでは、複数のアプライアンスの EEB ソフトウェアを管理および配備できます。

メモ: 他の EEB が同時にインストールされていないことを確認します。

ページの上部に、必要な各タスクの説明が表示されます。タスクが完了すると、ページが更新されて次に実行する手順の詳細が表示されます。各タスクのページの詳細を次に示します。

1. アプライアンス選択の確認

Install EEB (patch)

1 Confirm appliance selection

2 Select EEB

3 Review and confirm

4 Install

Ensure that the selected appliances have the same version.
To confirm the selected appliances, click Next. To make changes, click Back.

Search...

Selected appliances (2)	Role	Master	Version
^ 10.10.10.10 veritas.com	Media	10.10.10.10 veritas.com	3.1.1

Installed EEBs (1)

NBAPP_EEB_ET 3.1.0.0-2.x86_64 Jan 29, 2018 09:36:30

^ 10.10.10.10 veritas.com	-	-	3.1.1
---------------------------	---	---	-------

Installed EEBs (0)

Back

Next

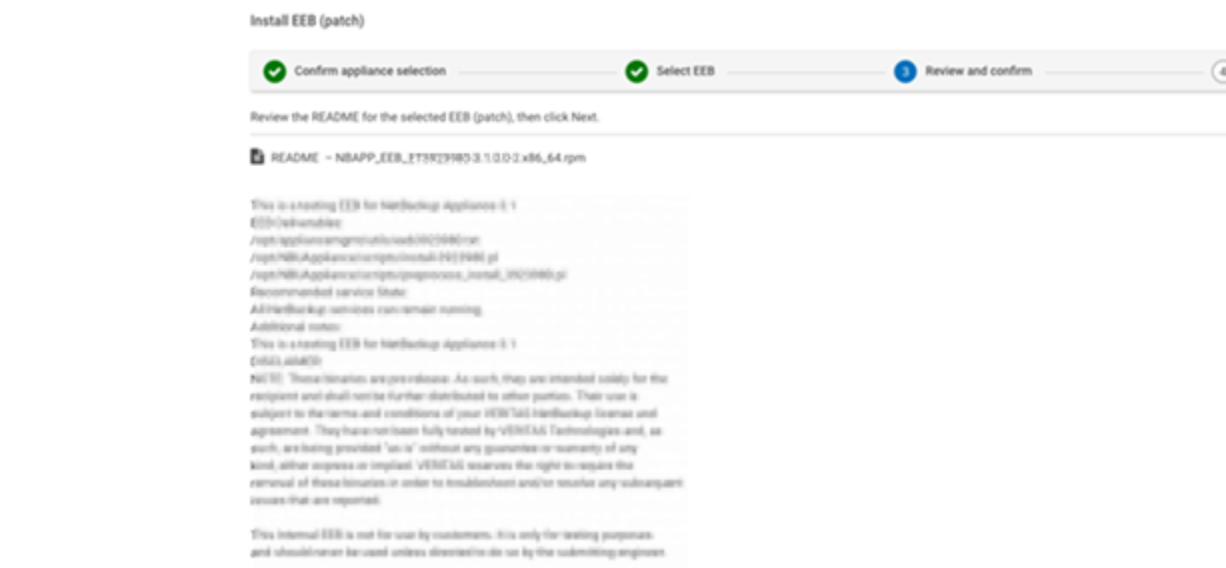
- 選択したアプライアンス (数) (Selected appliances (n))。各アプライアンスのホスト名とリストされたアプライアンスの合計数
このアプライアンスにすでにインストールされている EEB のリストを表示するには、左側のドロップダウン矢印をクリックします。
- 役割 (Role)。各アプライアンスに設定されている役割。
- マスター (Master)。リストされたアプライアンスメディアサーバーに関連付けられたマスターサーバー。
- バージョン (Version)。アプライアンスの現在のソフトウェアバージョン

2. EEB の選択

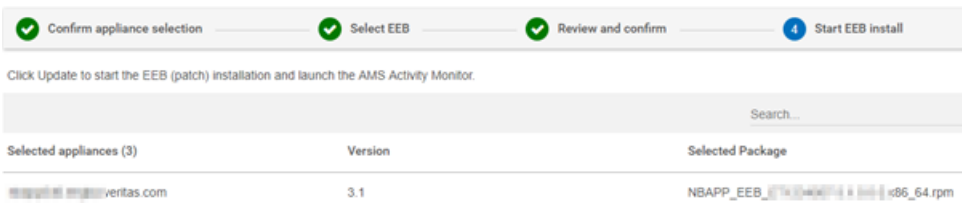


- 選択可能なパッケージ (Applicable packages)。AMS リポジトリに存在する互換性のある各 EEB の完全名。
- タイプ (Type)。パッケージの種類 (EEB)。
- バージョン (Version)。リストされた各 EEB のソフトウェアバージョン。

3. 確認



4. EEB インストールの開始



- 選択したアプライアンス (数) (Selected appliances (n))。各アプライアンスのホスト名とリストされたアプライアンスの合計数。
- バージョン (Version)。リストされた EEB のソフトウェアバージョン。
- 選択したパッケージ (Selected package)。アプライアンスの選択済み EEB の名前。

EEB (パッチ) をインストールするには

- 1 [ホーム (Home)] ページで、EEB のインストール先アプライアンスを選択します。選択したすべてのアプライアンスで、同じソフトウェアバージョンにする必要があります。アプライアンスの選択が完了したら、[管理 (Manage)] > [EEB (パッチ) のインストール (Install EEB (patch))] を選択します。
- 2 [EEB (パッチ) のインストール (Install EEB (patch))] ページ (手順 1: アプライアンス選択の確認) で、[ホーム (Home)] ページで選択したアプライアンスの情報を確認します。この情報のリストが正しい場合は、[次へ (Next)] をクリックします。
変更する場合は、[ホーム (Home)] ページに戻って変更します。このページに戻って選択内容を確認し、[次へ (Next)] をクリックします。
- 3 [EEB の選択 (Select EEB)] ページの [選択可能なパッケージ (Applicable packages)] 列で、適切な EEB パッケージを選択して [次へ (Next)] をクリックします。

メモ: パッケージは 1 つしか選択できません。

- 4 [確認 (Review and confirm)] ページで、Readme ファイルの情報を確認します。次に [次へ (Next)] をクリックします。
- 5 [EEB インストールの開始 (Start EEB install)] ページで、[EEB (パッチ) のインストール (Install EEB (patch))] をクリックしてインストールを開始します。
アクティビティ 모니터の [状態 (State)] 列で、次のように表示される各アプライアンスの EEB のインストールの進捗状況と結果を確認します。

Activity Monitor

Hostname	Task	State	Detail
▼ 192.168.1.100.veritas.com	Upgrade	Successful	---
▼ 192.168.1.101.veritas.com	Upgrade	Successful	---

- キューに投入されています (In queue)
EEB のインストールが予定されています。

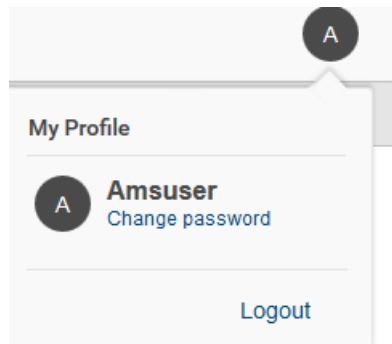
- 処理中 (In progress)
EEB のインストールが開始されていました。
- 成功 (Successful)
EEB のインストールが完了しました。
- 失敗 (Failed)
EEB のインストールが失敗しました。

アプライアンス管理コンソールからのログアウト

アプライアンス管理コンソールを終了するにはログアウトする必要があります。ログアウトするには次の手順を実行します。

アプライアンス管理コンソールからログアウトするには

- 1 アプライアンス管理コンソールの右上隅にあるアイコンをクリックします。アイコンは、ユーザー名の最初の文字です。



- 2 [ログアウト (Logout)]をクリックします。

メモ: 60 分間何の操作もしないと、ユーザーは自動的にログアウトされます。

アクティビティモニターとイベントの使用

この章では以下の項目について説明しています。

- [アクティビティモニターについて](#)
- [アクティビティモニターへのアクセス](#)
- [イベントの監視](#)
- [マイアプライアンスポータルへのアクセス](#)

アクティビティモニターについて

アプライアンス管理コンソールでアクティビティモニターを使用して、過去 90 日間のすべてのタスクを監視します。アクティビティモニターには、アップグレードまたは更新中のアプライアンスのホスト名も一覧表示されます。ホスト名の他に、タスク、状態、詳細、タスクの開始時間についての詳細も一覧表示されます。

Activity Monitor

	Hostname	Task	State	Detail	Time started
▼	 veritas.com	Upgrade	✔ Successful	---	Sep 12, 2017 03:05:30
▼	 veritas.com	Upgrade	✔ Successful	---	Sep 12, 2017 03:05:30

アップグレードまたは EEB インストールの開始、実行中、失敗、完了に伴って、アクティビティモニターが更新されます。更新サイクルはありません。ただちに更新が行われます。

EEB のインストールまたはアップグレードは、アクティビティモニターで確認できるように、アプライアンス管理コンソールから開始する必要があります。

メモ: 過去 90 日より前のタスクを監視することはできません。

アクティビティモニターへのアクセス

アクティビティモニターには、過去 90 日間に発生したすべてのタスクの概略が表示されます。失敗したタスクと完了したタスク、さらに実行中のタスクなど、すべてのタスクが表示されます。

アクティビティモニターにアクセスするには

- 1 AMS でアプライアンス管理コンソールにログオンします。AMS ユーザークレデンシャルを使用してログインします。
- 2 [監視 (Monitor)] アイコンをクリックします。
- 3 [アクティビティモニター (Activity Monitor)] で、[表示 (View)] をクリックします。

イベントの監視

アプライアンス管理コンソールの [監視 (Monitor)] > [イベント (Events)] ページで、AMS と管理対象エージェントで発生するイベントを監視します。

過去 6 か月間に発生したイベントが表示されます。過去 90 日間のイベントを CSV ファイルでエクスポートすることもできます。

過去 90 日間のイベントを CSV ファイルでエクスポートするには、[エクスポート (Export)] をクリックします。

 4-1 に、[イベント (Events)] ページのサンプルを示します。

図 4-1 [イベント (Events)] ページ

Events ×						
 Export		Search... 				
UMI code	Severity	Hostname	Description	Category	Username	Timestamp
V-409-919-1501	 Information	Agent 1	Appliance was set as an AMS	Application	admin	Jul 31, 2017 22:21:03
V-409-919-2001	 Information	Agent 2	Access key was regenerated	Application	amsadmin	Aug 01, 2017 11:06:59
V-409-919-1502	 Information	Agent 3	Appliance was registered to AMS	Application	admin	Aug 01, 2017 11:28:05
V-409-919-1502	 Information	Agent 4	Appliance was registered to AMS	Application	admin	Aug 01, 2017 11:28:23
V-409-919-1502	 Information	Agent 5	Appliance was registered to AMS	Application	admin	Aug 01, 2017 11:50:57

発生する可能性があるイベントの例を示します。

- アプライアンスが AMS として設定された
- アプライアンスが AMS に追加された
- パッケージがリポジトリに追加された
- パッケージがリポジトリから削除された
- アップグレードを開始した
- アップグレードが完了した
- アップグレードが失敗した
- プレフライトチェックを開始した
- プレフライトチェックが完了した
- プレフライトチェックが失敗した
- EEB のインストールを開始した
- EEB のインストールが完了した
- EEB のインストールが失敗した
- ユーザーのパスワードが変更された
- アクセスキーが再生成された
- アクセスキーを再生成できない

各イベントは、特定のホスト (AMS またはエージェント) に接続され、重大度を持ちます。イベントの重大度は、次のいずれかです。

イベントの重 説明 大度

情報 通常のシステム操作に関する情報。
(Information)

エラー (Error) すぐに対処する必要がある問題を示します。1 つ以上の操作が失敗したことを示している可能性があります。

警告 (Warning) エラーを引き起こす可能性がある状態について警告を表示します。

サポートサイトで UMI (Unique Message Identifier) コード列を検索すると、イベントの詳細を確認できます。以下のサポートサイトを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

マイアプライアンスポータルへのアクセス

マイアプライアンスポータルは、[監視 (Monitor)] タブからアクセスできます。[起動 (Launch)] をクリックし、Veritas Account Manager にログインしてマイアプライアンスポータルを表示します。マイアプライアンスポータルでは、アプライアンスの登録、既存の登録済みアプライアンスの表示や編集、サポートケースの表示、ハートビートデータの調査ができます。

記号

[ホーム (Home)] ページ

概要 18

アプライアンス管理コンソール

概要 7

イベントの監視 38

エージェント

追加 20

エージェントの追加 20

ソフトウェアのアップグレード 27

リポジトリ

パッケージまたはファイルの削除 26

パッケージまたはファイルの追加 25

パッケージまたはファイルを追加する場合のガイドラ
イン 25

リポジトリの管理 24

A

AMS

概要 8

AMS とエージェントのトポロジ 9

AMS の設定 11~12

AMS でのパスワードの変更 26

AMS ユーザーロール

概要 13

E

EEB のインストール 32

あ

アクティビティモニター

アクセス 38

概要 37

エージェント

概要 9

エージェントの削除 23